

都県名：千葉県

目的	目 標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 （円） （うち地域提案メニュー）	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅰ 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 4.8%	5.6%	98%	千葉県	4.8%	98%	1,620,876	
	海洋生物毒等の監視の推進	海洋生物毒のモニタリングの総実施数 190回	192回	101%	千葉県	190回	101%	1,436,000	
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度 113.4%	138.6%	122%	千葉県	113.4%	122%	10,897,598	
		家畜衛生に係る取組の充実度 109.1%	138.3%	126%	成田市畜産振興協議会	109.1%	126%	461,000	R4当初・繰越分
	養殖衛生管理体制の整備	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の割合 100%	100%	100%	千葉県	100%	100%	741,000	
	病害虫の防除の推進	従来の防除対策では防除が困難となっている作物の防除体系等の普及取組数 12回	7回	90%	千葉県	12回	90%	4,980,029	
		従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状からの向上率 120%	148%			120%			
総 計・総合達成度				A 109%				20,136,503	

留意事項

- 1 本様式は、都道府県等が記入するとともに、別記様式第14号－1及び別記様式第14号—4を添付すること。
- 2 「目標値」、「事業実施主体ごとの達成度」及び「交付金相当額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－1に基づきそれぞれ記入する。
- 3 特別交付型交付金は別様とすること。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（ 令和5 年度）

事業実施主体名：千葉県

（所在地：千葉県千葉市）

区 分		目標値及び実績				事 業 実 績		備 考
目 的	目 標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実 績 （円）	交付金相当額 （うち地域提案型） （円）	
Ⅰ	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用 の発生割合 4.8%	5.6%	98%	A	3,241,753	1,620,876	
	海洋生物毒等の監視の推進	海洋生物毒のモニタリングの総 実施数 190回	192回	101%	A	3,383,351	1,436,000	
	小 計					6,625,104	3,056,876	
Ⅱ	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度 113.4%	138.6%	122%	A	21,795,200	10,897,598	
	養殖衛生管理体制の整備	養殖衛生管理指導を実施した 経営体数の割合 100%	100%	100%	A	1,702,402	741,000	
	病害虫の防除の推進	従来の防除対策では防除が困 難となっている作物の防除体系 等の普及取組数 12回	7回	90%	A	9,960,058	4,980,029	
		従来の防除対策では防除が困 難な作物の防除体系等におけ る防除に関する管理手法の現 状からの向上率 120%	148%					
	小 計					33,457,660	16,618,627	
総 計・総合評価				109%	A	40,082,764	19,675,503	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 特別交付型交付金は別様とすること。
- 4 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金)の成果及び評価報告書(令和5 年度)

事業実施主体名: 成田市畜産振興協議会 (所在地: 千葉県成田市)

区 分		目標値及び実績				事 業 実 績		備 考
目 的	目 標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実 績 (円)	交付金相当額 (うち地域提案型) (円)	
Ⅱ	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組みの充 実度 109.1%	138.3%	126%	A	1,014,200	461,000	R4当初予算・繰越分
総 計・総合評価				126%	A	1,014,200	461,000	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 特別交付型交付金は別様とすること。
- 4 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

目標 農薬の適正使用等の総合的な推進

事業実施期間 令和5年度

都道府県等名、又は都道府県域を超えた取り組みの実施主体名 千葉県

事業の実施方法

1 事業の必要性

農薬の適正使用の一層の指導徹底を図るとともに、農薬類似品等を流通段階から排除するため、農薬販売者への立ち入り検査を実施した。また、ポジティブリスト制度に対応した農薬飛散防止技術の効果確認のため、県産農産物の残留農薬分析を実施した。

交付要綱別表1の事業メニューのうち（1）農薬の安全使用の推進（2）農薬の適切な管理及び販売の推進（3）農薬残留確認調査等の実施に取り組んだ。

2 目標値の考え方

(1) 不適切な販売件数

農薬の不適正な販売を現状の10.3%（R元 7.1%、R2 13.3%、R3 10.5%）から0.8%削減し、9.5%まで減少させる。

(2) 不適切な使用件数

農薬の不適正な使用を現状の0.8%（R元 0.9%、R2 0.6%、R3 0.9%）から、不適正使用なしの0%まで減少させる。

目標値

項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
不適正な販売割合	10.3%	9.5%	9.0%	101%	A
不適正な使用割合	0.8%	0%	2.1%	95%	A
不適正な販売・使用割合	5.6%	4.8%	5.6%	98%	A

事業内容及び実績額

事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)
ア. 農薬の適正使用の推進	農薬取扱者研修会 農薬使用者立入調査 リーフレット、啓発資料の作成	1,429,163	714,581	50%以内
イ. 農薬の適切な管理及び販売の推進	農薬管理指導士認定・更新研修 農薬販売者立入調査	265,440	132,720	50%以内
ウ. 農薬残留確認調査	残留農薬基準への適合状況確認	1,547,150	773,575	50%以内
合計		3,241,753	1,620,876	

事業の成果

事業実施内容

(1) 農薬の安全使用の推進

安全使用研修会開催 12 回（785 名※農薬管理指導士含）及び YouTube 配信（172 名※資料送付数）

農薬使用者に対する立入検査の実施 242 件

農薬適正使用啓発資料等の配布 飛散防止 44,000 部

農薬適正使用 18,000 部

農薬希釈早見盤 3,000 部

(2) 農薬の適切な管理及び販売の推進

農薬管理指導士研修会 12 回（新規数 92 名、更新数 572 名） 総認証者 2,079 名

農薬販売者に対する立入検査の実施 221 件

(3) 農薬残留確認調査

残留分析実施数 29 検体 219 成分

成果

農薬販売者及び使用者への啓発指導等により、農薬販売者の立入り検査を 221 件実施した。不適切な販売者は 20 件(9.0%)で、内容は、届出及び帳簿の不備が主で、直ちに指導した。

農薬使用者の立入り検査を 242 件実施した。不適切な使用者は 5 件(2.1%)であった。

農薬残留確認調査について、29 検体において 219 成分の残留農薬分析を実施した。全ての検体において、残留農薬基準超過はなかった。

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、農薬安全使用研修や農薬管理指導士研修会を現地開催とし、計 12 回実施した。農薬取締法に基づく遵守事項の周知徹底と、農薬の性質等に関する知識の普及を進めたため、農薬の販売及び安全使用についてより厳正に指導を行うことが出来た。

第三者の主なコメント

全農千葉県本部営農支援部 次長 遠藤 正樹

農薬の安全使用の推進については、安全使用研修会開催・啓発資料の作成および配布等農薬適正使用啓発において尽力いただいている。農薬販売者の立入り検査については、農薬類似品等の監視も含めて継続して実施していただきたい。

農薬の適切な管理及び販売の推進については、特に農薬管理指導士研修について J A 職員はもちろんゴルフ場関係者等農薬を使用、販売するものが幅広く受講しており、農薬適正使用の啓発につながっている。

農薬残留確認調査については、農薬を適正に使用した証として、農薬飛散防止技術の効果確認とあわせて県産農産物の安全性の担保ともなるため、継続して実施していただきたい。

国による評価の概要

目標 海洋生物毒等の監視の推進

事業実施期間 令和5年度

都道府県等名 千葉県

事業の実施方法

本県の海域は、東京湾海域と、太平洋に面した外房海域に二分され、東京湾海域ではアサリやホンビノスガイ等が、外房海域ではチョウセンハマグリやイワガキ等が漁獲されている。平成28年度の検査において、東京湾の木更津、富津の各地先のアサリ及び船橋地先で採取したホンビノスガイから、監視強化の目安を超える下痢性貝毒を検出した。また、令和2年度には、九十九里地区のチョウセンハマグリから監視強化の目安を超える麻痺性貝毒を検出した。さらに、例年のように様々な二枚貝で検出限界を超える貝毒を検出している。

これらのことから、次のとおり貝毒検査を実施し、併せて、検体を採取する漁場において、貝毒原因プランクトン調査を実施する。

（調査地区）

アサリ : 木更津北部、木更津南部、富津

ホンビノスガイ又はアサリ : 千葉北部

チョウセンハマグリ : 九十九里

イワガキ : 鴨川、九十九里 マガキ : 木更津北部、富津 シジミ : 小櫃川河口域

（目標値の考え方）

<モニタリングの内訳>

①貝毒検体数 120回（下表）

調査種	麻痺性貝毒	下痢性貝毒	計
アサリ	12	24	36
ホンビノスガイ又はアサリ	4	8	12
チョウセンハマグリ	13	9	22
イワガキ	6	6	12
マガキ	18	18	36
シジミ	1	1	2
合計	54	66	120

②貝毒原因プランクトン調査回数 70回

モニタリング総実施数 $120 + 70 = 190$ 回

目標値

項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
海洋生物毒のモニタリングの総実施数	128回	190回	192回	101%	A
<地区推進事業>					

事業内容及び実績額

事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率 (%)
(1) 海洋生物毒等のモニタリングのための調査分析・分析機器の整備	貝毒検査129検体 貝毒原因 プランクトン 調査 63回	3,194,751	1,343,000	42.0
(2) リスク管理体制の整備の推進	東北ブロック 会議 1回1名	39,020	19,000	48.7
	漁場環境保全 会議貝毒部会	53,260	26,000	48.8

	1 回 1 名 プランクトン 同定研修 1 回 1 名	96, 320	48, 000	49. 8
計		3, 383, 351	1, 436, 000	42. 4

事業の成果

<モニタリングの内訳>

①貝毒検査検体数 1 2 9 回（下表）

調査種	麻痺性貝毒	下痢性貝毒	計
アサリ	1 6	2 7	4 3
ホンビノスガイ又はアサリ	8	1 1	1 9
チョウセンハマグリ	1 2	9	2 1
イワガキ	5	5	1 0
マガキ	1 8	1 8	3 6
シジミ	0	0	0
合計	5 9	7 0	1 2 9

計 1 2 9 回行った結果、いずれも基準値を超える貝毒は検出されなかった。

②貝毒原因プランクトン調査回数 6 3 回

計 6 3 回行った結果、麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されず、下痢性貝毒原因プランクトンの最大値は 1.5 cells/ml (*D. acuminata*) であった。

モニタリング総実施数 1 2 9 + 6 3 = 1 9 2 回

達成度 = 実績値 / 目標値 × 1 0 0 = 1 9 2 / 1 9 0 × 1 0 0 = 1 0 1 %

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

一部の種では悪天候等の事情により検体を予定通り確保出来なかったものの、目標値 1 9 0 回に対して実績値が 1 9 2 回となったこと、実施した全ての検査において基準値を上回る貝毒は検出されなかったことから、県内漁場で採取された二枚貝の安全を確認し、消費者に安全な二枚貝を提供することが出来た。

このことから適正に事業を実施したと評価し、引き続き調査を実施する。

第三者の主なコメント

事業遂行のための機器整備、管理体制の整備を行うとともに、計画どおりの検体調査を行っており（達成度 101%）、事業目標が達成できたと評価される。

千葉県漁業協同組合連合会
常務理事 廣沢 真純

国による評価の概要

目標 家畜衛生の推進

事業実施期間 令和5年度

都道府県等名 千葉県

事業の実施方法

ア 監視体制の整備・強化

(7) 診断予防技術の向上

家畜伝染病の新たな診断方法、予防技術確立のため研修会等に参加した。

(4) 精度管理体制の適切な実施

家畜保健衛生所が実施する検査の信頼性を確保するため、外部精度管理調査や検査機器の校正を行った。

(ウ) サベ インスの円滑化

a BSE 検査・清浄化の推進

BSE の清浄性確認、防疫対策の有効性の評価や安全な牛肉を安定的に供給する体制の確立に資するため、死亡牛の BSE 検査を実施した。

b 家畜衛生関連情報の整備

迅速かつ正確な病性鑑定を実施するため、県内農場からの聞き取りや全国及び関東近県における疾病発生状況の情報収集を行った。また家畜衛生に関する有益な情報については、畜産関係団体等に提供し連携の強化を図った。

c 動物由来感染症監視体制の整備

動物由来感染症のうち県内農場で確認されている疾病について、疫学調査やモニタリング調査を実施した。

ウ 家畜の伝染性疾病のまん延防止

(ウ) 家畜の生産性を低下させる疾病の低減

家畜の慢性疾病については、地域一体での対策が必要であるため、地域の中でも特に経営上被害の大きい農家を選定。必要な検査を実施し、検査結果に基づき生産性向上のための指導を行い、地域全体で疾病対策に取り組む体制を構築した。

エ 畜産物の安全性向上

(イ) 動物用医薬品の適正使用と危機管理

病性鑑定等を行った家畜から対象菌を分離し、薬剤耐性の発現状況調査を行い、動物用医薬品の適正使用について普及啓発を行った。

カ 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備

ア～エの事業に係る家畜衛生対策を推進するため、必要な検査機器等を整備した。

家畜衛生に係る取組の充実度の向上を目標値として設定。

算定式

家畜の伝染性疾病の検出割合の減少率(A)

Aにおける対象疾病の検査件数の増加率(B)

目標値 $100 \times (1+A) \times (1+B)$

【千葉県】

目標値

令和2年度～令和4年度の平均：監視伝染病＋以外の伝染性疾病 = 913 件

－①

令和5年度：監視伝染病＋以外の伝染性疾病 = 1,266 件

－②

令和2年度～令和4年度の平均検査数 = 50,621 件

－③

令和5年度の検査数 = 63,794 件

－④

減少率(A) : $(①/③ - ②/④) \div ①/③$: $(0.01804 - 0.01985) \div 0.01804 = -0.100$ 増加率(B) = $(63,794 - 50,621) \div 50,621 = 0.260$ 家畜衛生にかかる取組の充実度 : $100 \times (1+A) \times (1+B)$ $= 100 \times (1 - 0.100) \times (1 + 0.260) \div 113.4$

目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
家畜衛生に係る取組の充実度	100	113.4	138.6	122	A
<地区推進事業> 家畜衛生に係る取組の充実度					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率（％）	
ア 監視体制の整備・強化	診断予防技術・精度管理・BSE 検査・家畜衛生関連情報整備・動物由来感染症監視体制	14,218,252	7,109,125	50.0	
ウ 家畜の伝染性疾患のまん延防止	慢性疾病検査、指導巡回他	1,947,500	973,750	50.0	
エ 畜産物の安全性向上	耐性菌検査	392,953	196,476	50.0	
カ 家畜衛生対策の推進に係る機器関連の整備	高速微量遠心機 1 台 冷凍庫(−20°)1 台 CO2 インキュベーター1 台 冷却遠心機 1 台 インキュベーター1 台	5,236,495	2,618,247	50.0	
県計		21,795,200	10,897,598	50.0	
合計		21,795,200	10,897,598	50.0	

事業の成果

1. 家畜の伝染性疾患の検出率の減少率 (A)

実績値

令和2年度～令和4年度の平均：監視伝染病＋以外の伝染性疾患 = 913 件 —①

令和5年度：監視伝染病＋以外の伝染性疾患 = 849 件 —②

令和2年度～令和4年度の平均検査数 = 50,621 件 —③

令和5年度の検査数 = 58,624 件 —④

減少率 (A) : $(①/③ - ②/④) \div ①/③$
 $: (0.01804 - 0.01448) \div 0.01804 = 0.197$

2. Aにおける対象疾患の検査件数の増加率 (B)

実績値

令和2年度から令和4年度の平均：Aにおける検査数 = 50,621 件

令和5年度：Aにおける検査数 = 58,624 件

増加率 (B) = $(58,624 - 50,621) \div 50,621 = 0.158$

3. 家畜衛生にかかる取組の充実度 : $100 \times (1 + A) \times (1 + B)$
 $= 100 \times (1 + 0.197) \times (1 + 0.158) \div 138.6$

4. 達成度 : $100 \times \text{充実度} / \text{目標値} = 100 \times 138.6 / 113.4 \div 122$

事業実施内容

ア 監視体制の整備・強化

- ・診断予防技術に係る研修会の受講：5名
- ・精度管理の適切な実施：機器校正 41 台
- ・死亡牛の BSE 検査：93 頭
- ・家畜衛生関連情報整備：業績発表会等 158 人
- ・動物由来感染症の検査：107 検体

ウ 家畜の伝染性疾患のまん延防止

- ・慢性疾患検査（EBL、PRRS）検査戸数：667 戸

エ 畜産物の安全性向上

- ・耐性菌検査：2 検体

カ 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備

- ・高速微量遠心機：1 台
- ・冷凍庫（-20°）：1 台
- ・CO2 インキュベーター：1 台
- ・冷却遠心機：1 台
- ・インキュベーター：1 台

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

家畜保健衛生所が実施する検査の精度管理を実施し検査の信頼性を確保するとともに、BSE 検査や疾病発生状況等の情報収集、動物由来感染症モニタリング検査を確実に実施し、疾病の発生予防、監視体制の整備・強化に努めた。

また、慢性疾患等生産性を阻害する EBL や PRRS 等の疾患について検査・指導を行い、地域一体となった疾病対策の取組を推進した。EBL の清浄化に取り組んでいる農場においては、陰性牛の定期的な検査や分離飼育等を実施することにより、陽性率の低下や陰性牛舎の清浄性維持等の効果が確認されている。

上記の家畜衛生対策を推進するため、検査機器等の充実を図った。

実績値は目標値の 113.4 を上回る 138.6 であったことから、事業は適切に実施されたと考えている。

第三者の主なコメント

千葉県農業共済組合

家畜部部長 上田 千世

死亡牛の BSE 検査や黄色ブドウ球菌等の人獣共通感染症のモニタリング調査を実施し、消費者の信頼確保に取り組んでいる。

また、地域で問題となっている EBL や PRRS の清浄化に地域一体となって、取り組んだ結果、疾病発生件数の減少につながったことが窺える。

今後とも伝染性疾患の発生予防・まん延防止のため、地域バイオセキュリティの向上に取り組むとともに、伝染病発生時に備え、危機管理体制の強化に取り組んでいただきたい。

併せて、畜産物の安全性向上の推進及び関係団体との情報共有・連携強化に引き続き努めていただきたい。

国による評価の概要

目標 養殖衛生管理体制の整備					
事業実施期間 令和5年度			都道府県等名 千葉県		
事業の実施方法 事業の必要性及び目標値の考え方					
消費者に安全・安心な養殖魚を提供するためには、養殖衛生管理体制の整備を図る必要がある。そこで、令和5年度は、養殖衛生管理の推進を目的とした各種会議や研修への参加、県内の全養殖業者を対象とした水産用医薬品の適正使用に関する指導及び養殖水産物の医薬品残留検査を実施する。 疾病対策としては、新たに国内での発生が懸念されるサケ科魚類の特定疾病の検査体制の整備のほか、引き続きアユの冷水病及びエドワジェラ・イクタルリ感染症の保菌検査、アワビの様々な疾病について検査及び機器を整備するとともに、持続的養殖生産確保法で特定疾病に指定されているコイヘルペスウイルス病及びコイ春ウイルス血症等の検査体制を整備する。 ① 養殖等経営体数：27 経営体 うち給餌養殖経営体数：24 経営体 アユ疾病対策等を行っている内水面漁業協同組合数：4 組合 ② 養殖衛生管理指導等を行う経営体数：27 経営体 うち巡回指導によるもの：21 経営体 その他によるもの：6 経営体 ③ その他 養殖衛生指導員数：16 人					
目標値					
項 目	現 状	目標値	実績	達成度	評価
養殖衛生管理体制の整備	養殖等経営体数：27 経営体	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合：27 経営体／27 経営体＝100%	27 経営体／27 経営体＝100%	100%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率 (%)	
養殖場の調査・監視	県内養殖業者に対する医薬品残留検査の実施	680,469	332,000	48.8	
養殖衛生管理機器の整備	魚類防疫診断機器の整備	40,040	20,000	50.0	
疾病の発生予防・まん延防止	サケ科魚類、コイ及びアワビ疾病検査体制、アユ種苗における冷水病及びエドワジェラ・イクタルリ感染症の保菌検査等の実施	981,893	389,000	39.6	
計		1,702,402	741,000	43.5	
事業の成果					
ア 養殖衛生管理指導を行った養殖等経営体数の割合：100%					
イ 養殖等経営体数：27 経営体 うち給餌養殖経営体数：24 経営体 アユ疾病対策等を行っている内水面漁業協同組合数：4 組合					

ウ 水産医薬品適正使用指導等会議の開催回数：3回 (web：2名1回、対面：1名1回、対面：1名1回) エ 養殖衛生管理指導等を行った経営体数（実経営体数）：27経営体 うち巡回指導によるもの：21経営体 その他によるもの：6経営体 水産用医薬品残留検査については、検査した検体全て水産用医薬品の残留基準値以下であり、水産用医薬品が適正に使用されていることを確認した。 放流用アユ種苗の保菌検査等については、冷水病及びエドワジェラ・イクタルリ感染症とも、検査した検体全てに保菌が認められなかった。 その他、コイヘルペスウイルス病等の特定疾病の発生に備え、魚病診断体制を整備するとともに、アワビ等の疾病について適宜検査を実施した。 また、ミニ遠心機を購入し、研究機関の疾病検査体制を整備した。	
都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要 養殖等経営体への巡回指導や水産用医薬品残留検査等を実施することにより、水産用医薬品の適正使用を推進し、養殖魚の安全を確認することができた。 また、各種検査等の疾病対策を実施することにより、魚病の発生防止やまん延防止を図ることができた。	
第三者の主なコメント 水産医薬品適正使用指導等会議への参加等を通じ管理・指導体制を整備し、養殖等経営体への巡回指導や水産用医薬品残留検査等を適正に実施したことにより、事業目標が達成できたと評価される。 千葉県漁業協同組合連合会 常務理事 廣沢 真純	国による評価の概要

目標 病害虫の防除の推進

事業実施期間 令和5年度

都道府県等名、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体名 千葉県

事業の実施方法

1 事業の必要性

①マイナー作物は、使用可能な農薬が少なく、また、現在の登録薬剤の防除効果が低下しており生産に支障が出るため、マイナー作物等に使用する農薬の適用拡大試験に取り組む必要があることから、交付要綱別表1の事業メニューのうち(1)防除が困難な作物の防除体系の確立に取り組んだ。

②近年、暖冬傾向が続き、本来、寒さに弱いスクミリンゴガイが越冬しやすくなり、田植え後の苗を食害し、水稻栽培に多大な被害を及ぼしている。食害を防止するために薬剤の散布を行っているが、従来の防除方法では効果が十分得られていない状況がみられ、発生地域・被害地域の拡大が問題となっている。

従来の薬剤散布のみの手法では防除しきれていないため、化学農薬だけに頼らずに、秋冬期の丁寧なロータリー耕うんによる土壌中に生息する貝の破碎や、水路の泥上げによる貝の除去など、耕種的防除の実施や、水田の水口にネットを設置するなどの侵入防止を行う物理的防除、水位を低く保つことで貝の行動を抑止して食害防止を図るなどの様々な防除方法を組み合わせた総合的な病害虫管理（IPM）に取り組む必要がある。

しかし、総合的病害虫管理を行うには、ほ場の状況や防除対策の仕方によって防除効果に振れがあるため、水田の均平度や、土壌の土質、気象条件、水路の状況の違いなどによる防除効果の検証を行い、地域の実情に応じた防除体系の確立を図る必要がある。

そこで、県では、各種防除体系の効果の検証を行い、防除体系の確立を図るため、市町村や土地改良区及び県の農業事務所等の関係団体が構成する市町村防除対策協議会が総合的病害虫管理による防除体系の効果検証及び生産現場への定着に向けた実証を行う。

2 目標値の考え方

①従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状から120%向上させる。

ズッキーニ（花）の防除に関する管理手法5種類（除草、ネット、換気、マルチング、化学農薬による防除）のうち、1種類（化学農薬による防除）について向上を図る。

新たに実践しようとする管理手法の全管理手法に対する割合 $1 \div 5 \times 100 = 20\%$

防除における管理手法の現状からの向上率: $20 + 100 = 120\%$

②従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及取組数

県内12市町村（市町村を含む協議会）で上記事業を実施し、各地において1回以上、技術の普及を目的とした実証や周知活動を実施する。

目標値

項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
①従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状からの向上率	100%	120%	148%	90%	A
②従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及取組数	—	12	7		

事業内容及び実績額

事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)
防除が困難な作物の防除体系の確立				
①基幹的マイナー作物の病害虫・雑草防除技術体	22.18a	715,000	357,500	50%以内

系の確立				
②地域の実情に応じたスクミリングガイ防除体系の効果の検証及び防除体系の確立	7市町村 17地区 357ha	9,245,058	4,622,529	50%以内
合計		9,960,058	4,980,029	

事業の成果

事業実施内容

①マイナー作物等の農薬適用拡大試験の実施

対象作物	ズッキーニ（花）	葉たまねぎ
対象害虫	アブラムシ類	アザミウマ類
登録拡大を目指す薬剤	ウララ DF	ファインセーブフロアブル
試験に要する面積	22.1a	7.7㎡

成果

- ① ズッキーニ（花）及び葉たまねぎにおいて、農薬適用拡大試験を実施した。薬剤抵抗性病害虫・雑草や従来の防除対策では十分な効果が得られない病害虫・雑草等の防除体系等における作業は、現状値から148%向上した。また、1作物1剤については2例の試験を終了し、登録申請中である。

ズッキーニ（花）の防除に関する管理手法5種類のうち、1種類（化学農薬による防除）の向上
新たに実践しようとする管理手法の全管理手法に対する割合 $1 \div 5 \times 100 = 20\%$
防除における管理手法の現状からの向上率： $20 + 100 = 120\%$

葉たまねぎの慣行栽培における農薬散布回数4回（ちばエコ基準2回）

登録を目指す農薬の散布回数 3回

$$3 \div 4 \times 100 + 100 (\%) = 175\%$$

$$(120 + 175) \div 2 = 148\%$$

- ②本事業を活用した地区において、地域ぐるみで取り組む総合防除対策が浸透したこともあり、当県の発生状況は、暖冬の影響で多かったものの、被害は抑えられた。また、時期に応じた適切な対策について農業者の理解が深まり、今年度の本事業に取り組んでいない地区においても、地区に応じた取組を継続的に行っている。

県内7市町村（市町村を含む協議会）で上記事業を実施し、各地において1回以上、技術の普及を目的とした実証や周知活動を実施した。

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

- ①マイナー作物においては、各作物で問題となっている病害虫に対する防除体系の確立に向けて、2作物2剤で農薬の適用拡大試験に取り組んだ。関係機関、生産者及び農薬メーカーと連携し、1作物1剤は登録申請に進めることができた。

- ②本事業を活用した地区において、地域ぐるみで取り組む総合防除対策が浸透したこともあり、暖冬の影響で発生が多かったものの、スクミリングガイによる被害は抑制された。

また、県のジャンボタニシ緊急防除対策（地域ぐるみで取り組む総合防除対策推進事業。以下「補助事業」という。）を実施したほとんどの地区において、補助事業の要件である①侵入防止対策、②食害防止対策、③越冬防止対策、④水路での貝密度低減対策の全てを組み合わせで行っていること、防除対策の推進に係る県職員旅費、防除対策啓発チラシの作成に適切に執行されていることを確認しており、事業の執行は適切である。

以上より、評価は「適正」とした。

第三者の主なコメント	国による評価の概要
全農千葉県本部営農支援部 次長 遠藤 正樹 県内にはマイナー作物の栽培が多い中登録されている農薬は少ない。また、ある程度農薬が登録されても薬剤抵抗性回避のため系統の異なる薬剤が複数登録されることが求められている。耕種的防除も取り入れて総合防除を目指す、化学農薬の効果に頼る部分は大きい。マイナー作物と言っても、発生する病害虫に薬剤抵抗性が発達しやすい事実はメジャー作物と変わりはない。以上のことからマイナー作物登録農薬を増やすことは継続して実施していただきたい。 千葉大学准教授・宇佐見俊行 スクミリンゴガイは、繁殖力が高く防除が非常に困難な外来生物であり、個体数を減少させて被害を抑制するためには、継続的かつ多面的に監視・防除を実施する必要がある。千葉県では、前年度までの活動に引き続いて、県内各地域での総合的な対策がなされている。今後も同様の活動を継続的に行っていただくとともに、従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及の取組については、次年度以降はさらに拡大できるよう引き続き調整していただきたい。	

目標 家畜衛生の推進					
事業実施期間 令和４年度～５年度			都道府県等名 千葉県		
事業の実施方法					
イ 家畜の伝染性疾病の発生予防 (イ) 地域における発生予防の体制整備 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止を強化するため、養鶏場に動力噴霧器を設置した。					
家畜衛生に係る取組の充実度の向上を目標値として設定。					
算定式 家畜の伝染性疾病の検出割合の減少率(A) Aにおける対象疾病の検査件数の増加率(B) 目標値 100×(1+A)×(1+B)					
【千葉県】					
目標値					
令和元年度～令和３年度の平均：監視伝染病＋以外の伝染性疾病＝1,251件 ―①					
令和４年度：監視伝染病＋以外の伝染性疾病＝1,667件 ―②					
令和元年度～令和３年度の平均検査数＝53,136件 ―③					
令和４年度の検査数＝64,378件 ―④					
減少率(A)：(①／③－②／④)÷①／③ ：(0.02354－0.02589)÷0.02354＝-0.100					
増加率(B)＝(64,378－53,136)÷53,136＝0.212					
家畜衛生にかかる取組の充実度：100×(1+A)×(1+B) ＝100×(1－0.100)×(1+0.212)≒109.1					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
<地区推進事業> 家畜衛生に係る取組の充実度	100	109.1	138.3	126	A
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)	
イ 家畜の伝染性疾病の発生予防 (イ)地域における発生予防の体制整備 a 農場バイオセキュリティの向上	養鶏場に動力噴霧器を整備	1,014,200	461,000	45.5	
<地区推進事業> 成田市畜産振興協議会(地区)	動力噴霧器１機	1,014,200	461,000	45.5	
地区推進事業 計		1,014,200	461,000	45.5	
合計		1,014,200	461,000	45.5	

事業の成果	
１．家畜の伝染性疾患の検出率の減少率（Ａ） 実績値 令和元年度～令和３年度の平均：監視伝染病＋以外の伝染性疾患 ＝ 1,251 件 —① 令和４年度：監視伝染病＋以外の伝染性疾患 ＝ 773 件 —② 令和元年度～令和３年度の平均検査数 ＝ 53,136 件 —③ 令和４年度の検査数 ＝ 53,163 件 —④ 減少率（Ａ）：（①／③－②／④）÷ ①／③ ：（0.02354 － 0.01454）÷ 0.02354 ＝ 0.382	
２．Ａにおける対象疾患の検査件数の増加率（Ｂ） 実績値 令和元年度から令和３年度の平均：Ａにおける検査数 ＝ 53,136 件 令和４年度：Ａにおける検査数 ＝ 53,163 件 増加率（Ｂ）＝（53,163 － 53,136 ）÷ 53,136 ＝ 0.001	
３．家畜衛生にかかる取組の充実度：100×（1＋Ａ）×（1＋Ｂ） ＝ 100×（1＋0.382）×（1＋0.001）≒ 138.3	
４．達成度：100×充実度／目標値＝100×138.3/109.1 ≒ 126	
事業実施内容 イ 家畜の伝染性疾患の発生予防 ・動力噴霧器の設置：1台	
都道府県等による評価の概要 養鶏場に動力噴霧器を設置することで高病原性鳥インフルエンザのまん延防止を強化した。 実績値は目標値の109.1を上回る138.3であったことから、事業は適切に実施されたと考えている。	
第三者の主なコメント 千葉県農業共済組合 家畜部部長 上田 千世 県内では、高病原性鳥インフルエンザが、令和２年度から４シーズン連続して発生しており、県内の養鶏産業に多大な被害をもたらしている。 発生を予防するためには、地域が一体となって農場バイオセキュリティレベルを向上する取組を推進することが重要である。 引き続き、飼養衛生管理基準の遵守徹底に取り組むとともに、万が一の発生に備え、万全な対策に努めていただきたい。	国による評価の概要

千葉県農業共済組合
家畜部部長 上田 千世

県内では、高病原性鳥インフルエンザが、令和2年度から4シーズン連続して発生しており、県内の養鶏産業に多大な被害をもたらしている。

発生を予防するためには、地域が一体となって農場バイオセキュリティレベルを向上する取組を推進することが重要である。

引き続き、飼養衛生管理基準の遵守徹底に取り組むとともに、万が一の発生に備え、万全な対策に努めていただきたい。

都県名：千葉県

目的	目 標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 （円） （うち地域提案メニュー）	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	豚熱のまん延防止	豚熱のまん延防止	達成	千葉県	豚熱のまん延防止	達成	5,898,978	
	重要病害虫の特別防除等	火傷病菌のまん延防止	火傷病菌のまん延防止	達成	千葉県	火傷病菌のまん延防止	達成	10,482,206	
	発生予防及び侵入調査の強化に資する機器の整備	果樹のカメムシ類等のまん延防止	果樹のカメムシ類等のまん延防止	達成	千葉県	果樹のカメムシ類等のまん延防止	達成	3,949,000	R4補正予算分
総 計・総合達成度								20,330,184	

留意事項

- 1 本様式は、都道府県等が記入するとともに、別記様式第14号－1及び別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「目標値」、「事業実施主体ごとの達成度」及び「交付金相当額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－1に基づきそれぞれ記入する。
- 3 特別交付型交付金は別様とすること。

事業実施主体名：千葉県

（所在地：千葉県千葉市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備 考
目 的	目 標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 （円）	交付金相当額 （うち地域提案型） （円）	
Ⅱ	家畜衛生の推進	豚熱のまん延防止	豚熱のまん延防止	達成	適正	6,325,956	5,898,978	
	重要病害虫の特別防除等	火傷病菌のまん延防止	火傷病菌のまん延防止	達成	適正	10,482,206	10,482,206	
	発生予察及び侵入調査の強化に資する機器の整備	果樹のカメムシ類等のまん延防止	果樹のカメムシ類等のまん延防止	達成	適正	3,949,000	3,949,000	R4補正予算分
総 計・総合評価						20,757,162	20,330,184	

- 留意事項
- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 特別交付型交付金は別様とすること。
- 4 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

目標 家畜衛生の推進	
事業実施期間 令和5年度	都道府県等名 千葉県
事業の実施方法 平成30年9月岐阜県での豚熱発生以降、発生地域は拡大し、関東近県においても養豚場での豚熱発生及び野生いのししの陽性事例が確認されている。 県内養豚場への豚熱ウイルス侵入のリスクが高まる中で、野生いのししにおける豚熱ウイルス保有状況を監視することは重要となっている。 このため、下記事業により野生いのししの調査捕獲及び豚熱検査を行うことにより、県内の野生いのししの豚熱ウイルス浸潤状況を監視していく。 ○捕獲野生いのししの豚熱検査促進 ・捕獲野生いのししの検査促進委託費 ・採材・防疫資材購入補助 ・検体輸送費補助 目標値の考え方 野生いのししにおけるウイルスの浸潤状況を把握し、地域における豚熱のまん延を防止する。	

目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
家畜衛生の推進 (豚熱のまん延防止)	豚熱のまん延防止	豚熱のまん延防止	豚熱のまん延防止	達成	適正
<地区推進事業>					

事業内容及び実績額				
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)
(5) 野生動物の対策強化	(豚熱)	6,325,956	5,898,978	
	野生いのしし 検査促進費 912 頭	5,472,000	5,472,000	定額
	野生いのしし 採材資材	408,430	204,215	50.0
	野生いのしし 防疫資材	188,646	94,323	50.0
	検体輸送料	256,880	128,440	50.0

事業の成果 国内の豚熱は平成30年9月岐阜県の養豚場での発生以降、発生地域は拡大し、関東近県においても養豚場での豚熱発生及び野生いのししの陽性事例が確認されている。 本県の養豚場への豚熱ウイルス侵入のリスクが高まる中で、野生いのししにおける豚熱ウイルス保有状況を監視することが重要となっているため、本事業を活用して捕獲野生いのししの豚熱検査を実施した。 現在までに、本県において野生いのししの陽性事例及び養豚場での発生事例はない。
都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要 近隣県において、野生いのししの豚熱陽性事例及び養豚場での豚熱発生が散発している状況で、本県への侵入リスクが高まっていることから、野生いのししの豚熱検査による監視は重要である。令和5年度は令和4年度よりも225%多い、912頭について検査を実施した。

今後も継続して検査を実施し、豚熱発生予防・まん延防止体制の強化に努める。

第三者の主なコメント

千葉県農業共済組合

家畜部部長 上田 千世

豚熱の発生を予防するためには、継続したワクチン接種や農場における飼養衛生管理の徹底に加え、感染源と考えられる野生いのししの継続的監視が重要である。

近隣県で豚熱発生が続いている状況を鑑み、本事業の活用が豚熱の発生予防・まん延防止に有効と考えられるので、今後も継続して侵入防止に努めていただきたい。

国による評価の概要

目標 重要病害虫の特別防除等

事業実施期間 令和5年度

都道府県名、都道府県域を越えた取組又は広域の
取組の事業実施主体名 千葉県

事業の実施方法

（事業の必要性）

中国において発生した火傷病菌への対応として、なし・りんご産地における火傷病菌のまん延を防止する。

（目標値の考え方）

火傷病菌のまん延防止に万全を期すため、これまでに輸入・販売された中国産なし・りんご花粉等について買上げ・廃棄を実施する。

目標値

項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
火傷病菌のまん延防止	－	火傷病菌のまん延防止	火傷病菌のまん延防止	達成	適正

事業内容及び実績額

事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)
中国産なし・りんご花粉の回収・買上廃棄	32kg	10,482,206	10,482,206	100%
合計		10,482,206	10,482,206	

事業の成果

事業実施内容

（１）花粉等の買上げ

花粉等の種類	買上げ数量 (kg)	備考
なし（純花粉）	19.9kg	
なし（粗花粉）	11.8kg	
りんご（純花粉）	0.01kg	
りんご（粗花粉）	0kg	
石松子	0.01kg	

（２）花粉等の廃棄

花粉等の種類	廃棄数量 (kg)	備考
なし（純花粉）	19.9kg	
なし（粗花粉）	11.8kg	
りんご（純花粉）	0.01kg	
りんご（粗花粉）	0kg	
石松子	0.01kg	

成果

農業協同組合や県内の農業資材販売店等の関係機関と連携し、千葉県内のなし、りんご生産者に対して全戸調査を実施して、中国産なし・りんご花粉の在庫量の全戸調査を実施した。

その後、各農業者から花粉を回収・買い上げし、廃棄した。

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

農業協同組合や県内の農業資材販売店等の関係機関と連携し、千葉県内のなし、りんご生産者が所持する中国産なし・りんご花粉の在庫全量を回収・買上・廃棄することができた。2024 年 8 月現在、県内では火傷病菌の発生はみられていない。

今後は国内産花粉を利用することで、引き続き火傷病が発生しないように農業者へ周知を行っていく。

第三者の主なコメント

(千葉大学准教授・宇佐見俊行)

火傷病は、侵入警戒病害虫に指定されており、その発生を未然に防ぐことは極めて重要である。今回の事業実施により、火傷病の発生国である中国で生産され、輸入されたなし・りんご花粉を、千葉県内の農業者等が使用していないことを確認し、同時に在庫の回収や廃棄により、使用を未然に防止することができた。これは、火傷病の発生を防ぐために極めて重要な成果である。

侵入警戒事業により引き続き千葉県内の火傷病発生状況について調査するとともに、今後も農業者が中国産なし・りんご花粉を利用することがないよう、注意喚起を行っていただきたい。

国による評価の概要

目標 発生予察及び侵入調査の強化に資する機器の整備					
事業実施期間 令和5年度			都道府県等名 千葉県		
事業の実施方法 スマート害虫モニタリングシステムの有効性を確認するため、システムA Iの誘殺虫識別精度を調査する。また、既存の予察灯と誘殺効率を比較することにより、これまで蓄積してきたデータの継続性について検討する。					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
果樹のカメムシ類等のまん延防止	-	果樹のカメムシ類等のまん延防止	果樹のカメムシ類等のまん延防止	達成	適正
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率(%)	
(1) スマート害虫モニタリングシステム等の整備	スマート害虫モニタリングシステム 1台	3,949,000	3,949,000	100	
事業の成果 スマート害虫モニタリングシステムを導入し、迅速・精緻かつ省力的な予察調査を実施できる環境を整備した。 導入した機器 商品名：害虫モニタリングシステム（RYNAN TECHNOLOGIES VIETNAM JSC.）M30A2SA 実証の結果 令和5年10月～11月にかけて、誘引、画像認識の状況について確認を行うとともに、機械の判別と人間の目視による判別の比較を行った。 ・いくつかの昆虫において、システムに登録がなく、異なる昆虫と判定されるケースがあった。 ・カップの底を開閉して排出する機構になっており、側壁についている虫が複数回カウントされるケースがあった。 ・誘引された虫を殺す機構がないため、排出前や排出時に脱出してしまう虫がいる恐れがある。 等いくつかの注意点がみられた。 令和6年度においても果樹カメムシの発生予察に利用し、引き続き問題がないか確認を行う。					
都道府県等又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要 システム AI の誘殺虫識別精度については、問題が残るものの、自動で虫の誘引・回収・撮影・排出を行うことが可能であった。 他県の利用状況についても情報収集を行い、利用可能性について引き続き検討を行う。以上より、評価は「適正」とした。					
第三者の主なコメント （千葉大学准教授・宇佐見俊行） 本事業で導入した機器については、昆虫等の自動撮影機能やAIによる画像解析により自動で個体数を計測する機能等、迅速かつ正確な発生予察事業を実施できる性能があると判断される。本事業では、その性能とともに、運用において注意すべき問題点を確認することもできた。今後は、明らかになった問題点への対策を講じていただくとともに、引き続き性能や利用法について実証を行い、千葉県内の病虫害発生予察及び防除に活用できる可能性を検討いただきたい。		国による評価の概要			

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：千葉市

（所在地：千葉県千葉市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
Ⅲ	地域での食育の推進	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている者の割合 49.5%	100.0%	202%	A	342,760	342,760	
		産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 77.4%	100.0%	129%	A	-	-	
総 計 ・ 総合評価				165.50%	A	342,760	342,760	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：ママ♡エンジェルズ千葉県オーガニック給食審議会

（所在地：千葉県船橋市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
Ⅲ	地域での食育の推進	小出農園における子どもの農業体験延べ人数 132人	106.0%	106%	A	481,793	481,793	目標：132人 実績：140人
		千葉県産農林水産物を購入したい人の割合 91.0%	92.7%	101%	A	-	-	
		主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている人の割合 65.0%	49.8%	76%	C	-	-	
		地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合 50.0%	88.9%	177%	A	6,599,660	6,599,660	
総 計 ・ 総合評価				117.01%	A	7,081,453	7,081,453	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：ももくり佐倉

（所在地：千葉県佐倉市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 （円）	交付金相当額 （円）	
Ⅲ	地域での食育の推進	地域等で共食したい と思う人が共食する 割合 75.0%	96.9%	129%	A	196,041	196,041	
		主食・主菜・副菜を 組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ食べ ている市民の割合 80.0%	92.1%	115%	A	85,585	85,585	
		産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 80.0%	91.8%	114%	A	-	-	
		佐倉産を意識して農 産物を購入している 市民の割合 35.0%	76.1%	217%	A	-	-	
		地域や家庭で受け継 がれてきた伝統的な 料理や作法等を継承 し、伝えている者の 割合 55.0%	74.4%	135%	A	-	-	
		農林漁業体験を経験 した者の述べ人数 65人	138.0%	138%	A	256,807	256,807	目標：65人 実績：90人
		総 計 ・ 総合評価		127.40%	A	538,433	538,433	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：千葉県

（所在地：千葉県千葉市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
Ⅲ	地域での食育の推進	主食・主菜・副菜を そろえた食事を１日 ２回以上ほとんど毎 日食べている者の割 合 58.5%	92.4%	157%	A	280,552	140,276	
		産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 77.4%	93.9%	121%	A	-	-	
総 計 ・ 総合評価				139.00%	A	280,552	140,276	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：千葉市

（所在地：千葉県千葉市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
Ⅲ	地域での食育の推進	主食・主菜・副菜を 組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ毎 日食べている者の割 合 80.0%	94.0%	117%	A	698,012	349,006	
		産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 77.4%	91.8%	118%	A	-	-	
総 計 ・ 総合評価				117.50%	A	698,012	349,006	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：木更津市

（所在地：千葉県木更津市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
Ⅲ	地域での食育の推進	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 92.4%	91.5%	99%	B	108,900	54,000	目標：31人 実績：29人
		食育の推進に関わるボランティアの人数 31人	93.0%	93%	B	2,852,300	1,426,000	
		地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合 53.7%	78.9%	146%	A	252,582	126,000	
		学校給食における地場産物等を使用する割合 83.5%	74.2%	88%	B	-	-	
総 計 ・ 総合評価				97.26%	B	3,213,782	1,606,000	

留意事項

- 1 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 3 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書（令和5年度）

事業実施主体名：船橋市

（所在地：千葉県船橋市）

区 分		目標値及び実績				事業実績		備考
目的	目標	目標値	実績	達成度	評価	所要額 （円）	交付金相当額 （円）	
Ⅲ	地域での食育の推進	主食・主菜・副菜を 組み合わせて食べて いる者の割合 80.0%	96.9%	121%	A	66,000	33,000	
		野菜を１日２回以上 食べている者の割合 80.0%	93.8%	117%	A	-	-	
		農水産物を購入する 際に、産地を意識し て購入している者の 割合 75.5%	75.0%	99%	B	-	-	
総 計 ・ 総合評価				112.33%	A	66,000	33,000	

留意事項

- 事業実施主体は、必ず別記様式第14号－4を添付すること。
- 「区分」、「目標値」及び「所要額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－4に基づきそれぞれ記入する。
- 都道府県等以外が事業実施主体となる場合は提出を省略できる。

令和4年度補正 消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）都道府県等成果及び評価報告書（令和6年8月作成）

都道府県等名：千葉県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅲ地域での食育の推進	地域での食育の推進	【農林漁業体験を経験した者の述べ人数】小出農園における子どもの農業体験延べ人数	106.0%	106.00%	ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会	100.0%	106%	481,793	目標：132人 実績：140人
		【農林漁業体験を経験した者の述べ人数】	138.0%	138.00%	ももクリ佐倉	100.0%	138%	256,807	目標：65人 実績：90人
		【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】千葉県産農林水産物を購入したい人の割合	92.7%	101.00%	ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会	91.0%	101%		
		【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】佐倉産を意識して農産物を購入している市民の割合	76.1%	217.00%	ももクリ佐倉	35.0%	217%		
		【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】	95.9%	121.50%	千葉市	77.4%	129%		
					ももクリ佐倉	80.0%	114%		
		【地域等で共食したいと思う人が共食する割合】	96.9%	129.00%	ももクリ佐倉	75.0%	129%	196,041	
		【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている人の割合	71.0%	95.50%	ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会	65.0%	76%		
					ももクリ佐倉	80.0%	115%	85,585	
		【食文化の継承度】地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている者の割合	87.7%	171.33%	千葉市	49.5%	202%	342,760	
ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会	50.0%				177%	6,599,660			
ももクリ佐倉	55.0%				135%				
総 計 ・ 総合達成度				A 138.30%		-	-	7,962,646	

留意事項

- 1 本様式は、都道府県等が記入するとともに、別記様式第14号－2及び別記様式第14号－4を添付すること。
- 2 「目標値」、「事業実施主体ごとの達成度」及び「交付金相当額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－2に基づきそれぞれ記入する。

令和5年度 消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）都道府県等成果及び評価報告書（令和6年8月作成）

都道府県等名：千葉県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅲ地域での食育の推進	地域での食育の推進	【食文化の継承度】 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合	78.9%	146.00%	木更津市	53.7%	146%	126,000	
		【食育の推進に関わるボランティアの人数】	93.0%	93.00%	木更津市	100.0%	93%	1,426,000	目標：31人 実績：29人
		【学校給食における地場産物等を使用する割合】	74.2%	88.00%	木更津市	83.5%	88%		
		【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】 主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている者の割合	93.9%	131.66%	千葉県	58.5%	157%	140,276	
					千葉市	80.0%	117%	349,006	
					船橋市	80.0%	119%	33,000	※野菜を1日2回以上食べている者の割合
		【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】	88.1%	109.25%	千葉県	77.4%	121%		
					千葉市	77.4%	118%		
					木更津市	92.4%	99%	54,000	
					船橋市	75.5%	99%		
総 計 ・ 総合達成度				A 103.19%		-	-	2,128,282	

留意事項

- 本様式は、都道府県等が記入するとともに、別記様式第14号－2及び別記様式第14号－4を添付すること。
- 「目標値」、「事業実施主体ごとの達成度」及び「交付金相当額」のそれぞれの欄は、別記様式第14号－2に基づきそれぞれ記入する。

都道府県：千葉県

目的	目標	事業実施主体ごとの達成度									交付金相当額 (円)	備考
		事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	事業実施主体	目標	実績	達成度		
Ⅲ地域での食育の推進	地域での食育の推進	食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている者の割合	51.5%	87.7%	171.33%	千葉市	49.5%	100.0%	202%	342,760	
							ママ♡エンジェル ス千葉県オーガ ニック給食審議会	50.0%	88.9%	177%	6,599,660	
							ももクリ佐倉	55.0%	74.4%	135%	-	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	78.7%	95.9%	121.50%	千葉市	77.4%	100.0%	129%	-	
							ももクリ佐倉	80.0%	91.8%	114%	-	
			主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている人の割合	72.5%	71.0%	95.50%	ママ♡エンジェル ス千葉県オーガ ニック給食審議会	65.0%	49.8%	76%	-	141.26667%
							ももクリ佐倉	80.0%	92.1%	115%	85,585	
			千葉県産農林水産物を購入したい人の割合	91.0%	92.7%	101.00%	ママ♡エンジェル ス千葉県オーガ ニック給食審議会	91.0%	92.7%	101%	-	
			佐倉産を意識して農産物を購入している市民の割合	35.0%	76.1%	217.00%	ももクリ佐倉	35.0%	76.1%	217%	-	
		事業メニューの実績・達成度			65.7%	84.7%	141.26%				7,028,005	
		事業メニュー計・評価（加重平均）					124.67%					
		農林漁業体験の機会の提供	小出農園における子どもの農業体験延べ人数	100.0%	106.0%	106.0%	ママ♡エンジェル ス千葉県オーガ ニック給食審議会	100.0%	106.0%	106%	481,793	目標：132人 実績：140人
			農林漁業体験を経験した者の述べ人数	100.0%	138.0%	138.0%	ももクリ佐倉	100.0%	138.0%	138%	256,807	目標：65人 実績：90人
			千葉県産農林水産物を購入したい人の割合	91.0%	92.7%	101.0%	ママ♡エンジェル ス千葉県オーガ ニック給食審議会	91.0%	92.7%	101%	-	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	80.0%	91.8%	114.0%	ももクリ佐倉	80.0%	91.8%	114%	-	
			事業メニューの実績・達成度			92.8%	107.1%	114.75%				738,600
		事業メニュー計・評価（加重平均）					10.64%					
		共食の場における食育活動	地域等で共食したいと思う人が共食する割合	75.0%	96.9%	129.0%	ももクリ佐倉	75.0%	96.9%	129%	196,041	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	80.0%	91.8%	114.0%	ももクリ佐倉	80.0%	91.8%	114%	-	
			事業メニューの実績・達成度			77.5%	94.4%	121.5%				196,041
		事業メニュー計・評価（加重平均）					2.99%					
総 計 ・ 総合達成度					A 138.30%			-	-	7,962,646		

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

都道府県：千葉県

目的	目標	事業実施主体ごとの達成度									交付金相当額 (円)	備考
		事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	事業実施主体	目標	実績	達成度		
Ⅲ地域での食育の推進	地域での食育の推進	課題解決に向けたシンポジウム等の開催	主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている者の割合	72.8%	94.4%	131.66%	千葉県	58.5%	92.4%	157%	140,276	
							千葉市	80.0%	94.0%	117%	349,006	
							船橋市	80.0%	96.9%	121%	33,000	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	80.7%	88.1%	109.25%	千葉県	77.4%	93.9%	121%	-	
							千葉市	77.4%	91.8%	118%	-	
							木更津市	92.4%	91.5%	99%	54,000	
							船橋市	75.5%	75.0%	99%	-	
			野菜を1日2回以上食べている者の割合	80.0%	93.8%	117.0%	船橋市	80.0%	93.8%	117%	-	
		事業メニューの実績・達成度			77.8%	92.1%	119.30%				576,282	
		事業メニュー計・評価（加重平均）					32.30%					
		食育推進リーダーの育成及び活動の促進	食育の推進に関わるボランティアの人数	100.0%	93.0%	93.0%	木更津市	100.0%	93.0%	93%	1,426,000	目標：31人 実績：29人
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	92.4%	91.5%	99.0%	木更津市	92.4%	91.5%	99%	-	
		事業メニューの実績・達成度			96.2%	92.3%	96.00%				1,426,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）					64.32%					
		学校給食における地場産物等活用の促進	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合	53.7%	78.9%	146.0%	木更津市	53.7%	78.9%	146%	126,000	
			学校給食における地場産物等を使用する割合	83.5%	74.2%	88.0%	木更津市	83.5%	74.2%	88%	-	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	92.4%	91.5%	99.0%	木更津市	92.4%	91.5%	99%	-	
		事業メニューの実績・達成度			76.5%	81.5%	111.00%				126,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）					6.57%					
		総 計 ・ 総合達成度					A 103.19%			-	-	2,128,282

131.67%

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考	
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)		
地域での食育の推進	千葉市	食文化の保護・継承や日本型食生活 の実践のための取組支援	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている者の割合 49.5%	49.5%	100.0%	202%	-	342,760	342,760		
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 77.4%	77.4%	100.0%	129%	-	-	-		
		事業メニューの実績・達成度			63.5%	100.0%	165.50%		342,760	342,760	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				165.50%					
		事業実施主体 計 ・ 評価						165.50%		342,760	342,760

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 （円）	交付金相当額 （円）	
地域での食育の推進	ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会	食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合 50.0%	50.0%	88.9%	177%	-	6,599,660	6,599,660	
			主食・主菜・副菜をそろえた食事を１日２回以上、ほとんど毎日食べている人の割合 65.0%	65.0%	49.8%	76%	-			
			千葉県産農林水産物を購入したい人の割合 91.0%	91.0%	92.7%	101%	-			
		事業メニューの実績・達成度		68.7%	77.1%	118.00%		6,599,660	6,599,660	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				109.97%				
		農林漁業体験の機会の提供	小出農園における子どもの農業体験延べ人数 132人	100.0%	106.0%	106%	-	481,793	481,793	目標：132人 実績：140人
			千葉県産農林水産物を購入したい人の割合 91.0%	91.0%	92.7%	101%				
		事業メニューの実績・達成度		95.5%	99.4%	103.50%		481,793	481,793	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				7.04%				
		事業実施主体 計・評価				117.01%	A	7,081,453	7,081,453	

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考	
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)		
地域での食育の推進	ももくり佐倉	共食の場における食育活動	地域等で共食したい と思う人が共食する 割合 75.0%	75.0%	96.9%	129%	-	196,041	196,041		
			産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 80.0%	80.0%	91.8%	114%	-				
		事業メニューの実績・達成度			77.5%	94.4%	121.50%		196,041	196,041	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				44.23%					
		食文化の保護・継承や日本型食生活 の実践のための取組支援	主食・主菜・副菜を 組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ食べ ている市民の割合 80.0%	80.0%	92.1%	115%	-	85,585	85,585		
			産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 80.0%	80.0%	91.8%	114%	-	-	-		
			佐倉産を意識して農 産物を購入している 市民の割合 35.0%	35.0%	76.1%	217%	-	-	-		
			地域や家庭で受け継 がれてきた伝統的な 料理や作法等を継承 し、伝えている者の 割合 55.0%	55.0%	74.4%	135%	-	-	-		
			事業メニューの実績・達成度			62.5%	83.6%	145.25%		85,585	85,585
		事業メニュー計・評価（加重平均）				23.08%					
		農林漁業体験の機会の提供	農林漁業体験を経験 した者の述べ人数 65人	100.0%	138.0%	138%	-	256,807	256,807	目標：65人 実績：90人	
			産地や生産者を意識 して農林水産物・食 品を選ぶ者の割合 80.0%	80.0%	91.8%	114%					
		事業メニューの実績・達成度			90.0%	114.9%	126.00%		256,807	256,807	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				60.09%					
		事業実施主体 計・評価						127.40%	A	538,433	538,433

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考	
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)		
地域での食育の推進	千葉県	課題解決に向けたシンポジウム等の開催	主食・主菜・副菜を そろえた食事を1日 2回以上ほとんど毎日 食べている者の割合 58.5%	58.5%	92.4%	157%	-	280,552	140,276		
			産地や生産者を意識 して農林水産物・食品 を選ぶ者の割合 77.4%	77.4%	93.9%	121%	-				
		事業メニューの実績・達成度			68.0%	93.2%	139.00%		280,552	140,276	
		事業メニュー計・評価（加重平均）			139.00%						
事業実施主体 計 ・ 評価						139.00%		280,552	140,276		

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
地域での食育の推進	千葉市	課題解決に向けたシンポジウム等の開催	主食・主菜・副菜を 組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ毎日 食べている者の割合 80.0%	80.0%	94.0%	117%	-	698,012	349,006	
			産地や生産者を意識 して農林水産物・食品 を選ぶ者の割合 77.4%	77.4%	91.8%	118%	-	-	-	
		事業メニューの実績・達成度			78.7%	92.9%	117.50%	698,012	349,006	
		事業メニュー計・評価（加重平均）				117.50%				
		事業実施主体 計・評価					117.50%		698,012	349,006

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)	
地域での食育の推進	木更津市	課題解決に向けたシンポジウム等の開催	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 92.4%	92.4%	91.5%	99%	-	108,900	54,000	
		事業メニューの実績・達成度			92.4%	91.5%	99.00%	108,900	54,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）			3.32%					
		食育推進リーダーの育成及び活動の促進	食育の推進に関わるボランティアの人数 31人	100.0%	93.0%	93%	-	2,852,300	1,426,000	目標：31人 実績：29人
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 92.4%	92.4%	91.5%	99%	-	-		
		事業メニューの実績・達成度			96.2%	92.3%	96.00%	2,852,300	1,426,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）			85.24%					
		学校給食における地場産物等活用の促進	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合 53.7%	53.7%	78.9%	146%	-	252,582	126,000	
			学校給食における地場産物等を使用する割合 83.5%	83.5%	74.2%	88%	-	-	-	
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 92.4%	92.4%	91.5%	99%				
		事業メニューの実績・達成度			76.5%	81.5%	111.00%	252,582	126,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）			8.70%					
		事業実施主体 計・評価						97.26%	B	3,213,782

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

区 分			目標値及び実績					事業実績		備考	
目標	事業実施主体	事業メニュー	目標値	目標	実績	達成度	評価	所要額 (円)	交付金相当額 (円)		
地域での食育の推進	船橋市	課題解決に向けたシンポジウム等の開催	主食・主菜・副菜を 組み合わせて食べて いる者の割合 80.0%	80.0%	96.9%	121%	-	66,000	33,000		
			野菜を1日2回以上 食べている者の割合 80.0%	80.0%	93.8%	117%	-	-	-		
			農水産物を購入する 際に、産地を意識し て購入している者の 割合 75.5%	75.5%	75.0%	99%	-	-	-		
		事業メニューの実績・達成度			78.5%	88.6%	112.33%		66,000	33,000	
		事業メニュー計・評価（加重平均）			112.33%						
事業実施主体 計・評価						112.33%		66,000	33,000		

事業メニュー「食育推進検討会の開催」について
目標設定を行っている場合は、当該目標設定を記載。目標設定を行っていない場合は、実施した他の事業メニューにおいて、「食育推進検討会の開催」と関わりがある事業内容の目標設定を全てを記入する。

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			千葉県		
事業の実施方法 食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援					
目標値					
項 目	現 状	目標値	実績	達成度	評価
・ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている者の割合	43.9%	49.5%	100%	202%	A
・ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.8%	77.4%	100%	129%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相 当額 (円)	交付率 (%)	
食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援 「プロから学ぶ食育教室」の開催	7～8月（計6回）	342,760	342,760	100%	
事業の成果					
食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援 「プロから学ぶ食育教室」の開催 場 所：千葉市内各区保健福祉センター（緑区はあすみが丘プラザ）（7～8月（計6回）） 参加者：市内の小学生とその保護者 計48組106人 内 容：地域や家庭における食文化を次世代に継承していくため、県・市内産農産物を使った料理や太巻き寿司等、食文化に触れる講習会「プロから学ぶ食育教室」を実施し、実際の調理実習を通じて食文化の理解を深めた。地域で受け継がれてきた食文化を通じて地域への愛着を深め、家庭での食事においても県・市内産農作物を取り入れ、家族・知人に伝達することで日本の食文化のすばらしさを広める一助とした。					
○成 果					
食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援					
【食文化の継承度】					
目 標：地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合の増加					
実績値の検証（算定）方法等：アンケート調査（48名）					
設 問：プロから学ぶ食育教室に参加し、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを伝えていきたいと思いませんか。（ア）はい（イ）いいえ					
結 果：「（ア）はい」と回答した者の割合 100%					
目標値：49.5%					
実績値：100%					
達成度：202%					
プロから学ぶ食育教室は、若い世代（小学生とその保護者）を対象に実施し、千葉で受け継がれてきた食文化の一つ「太巻き寿司」について、伝えることができた。教室の中では実際に太巻き寿司を巻くことができ「家でも作ってみたい」との感想もあったため、食文化を継承する意識の向上につながったと感じることができた。					

2 共通項目

【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】

目 標：産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート調査（48名）

設 問：プロから学ぶ食育教室に参加し、産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選んでいきたいと思いましたか。（ア）はい（イ）いいえ

結 果：「（ア）はい」と回答した者の割合 100%

目標値：77.4%

実績値：100%

達成度：129%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

若い世帯を対象に、千葉の伝統料理である太巻き寿司を伝える食育教室を実施することにより、効果的な食育の啓発が図られた。アンケートではいずれも目標値を上回る実績となり、食育の推進に資するものであったと評価できる。

第三者の主なコメント

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学名誉教授
明石 要一

千葉市は食文化の保護・継承や日本型食生活の実践において、「プロから学ぶ食育教室」を実施している。対象は小学生と保護者である。食生活は各家庭で異なるが日本型というキーワードでは一定の型が必要である。そのためには「プロ」の人からの指導が必要になってくる。とりわけ「太巻き寿司」は誰でも可能でない。プロの登場が必要になってくる。千葉市はそれを実践し、成果を参加者のアンケートで確認している。数値は目標値を上回っている。

日本型の食生活が消えつつある中、千葉市の実践は理にかなったものとなっている。これからも季節ごとの日本固有の食生活を保護・継承していくことが大切になるであろう。また、日本型食生活で地域おこしが可能となるであろう。「太巻きずし」は一つのコンテンツである。

国による評価の概要

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			ママ♡エンジェルス千葉県オーガニック給食審議会		
事業の実施方法					
1. 食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援					
2. 農林漁業体験の機会の提供					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
・地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合	31.5%	50.0%	88.9%	177%	A
・主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている人の割合	49.1%	65.0%	49.8%	76%	C
・小出農園における子どもの農業体験延べ人数	122 人	132 人	140 人	106%	A
・千葉県産農林水産物を購入したい人の割合	88.9%	91.0%	92.7%	101%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等		所要額実績 (円)	左の交付金相 当額 (円)	交付率 (%)
1. 食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援			6,599,660	6,599,660	100%
1 食育をテーマにした講演会の開催（船橋市）	・令和6年2月11日（計1回）				
2 上映会＋講演会の開催（船橋市）	・令和6年1月7日（計1回）				
3 上映会＋講演会の開催（佐倉市）	・令和5年10月7日（計1回）				
4 上映会＋講演会の開催（鎌ヶ谷市）	・令和6年2月17日（上映会2回）、 2月18日（上映会＋講演会1回）				
5 味噌づくりワークショップの開催（鎌ヶ谷市）	・令和6年1月15日、20日（計2回）				
2. 農林漁業体験の機会の提供			481,793	481,793	100%
6 親子向け収穫農作業体験会の開催（小出農	・令和5年11月4日（計1回）				

園) (佐倉市)				
事業の成果 ○取組事項 【食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援】 1 食育をテーマにした講演会の開催 (船橋市) 場 所: 船橋勤労市民センター (令和6年2月11日 (計1回)) 参加者: 194名 (うち県民161名) 内 容: ①食育の講演 ②食育についてのトークセッション 2 上映会+講演会の開催 (船橋市) 場 所: 船橋勤労市民センター (令和6年1月7日 (計1回)) 参加者: 217名 (うち県民188名) 内 容: ①食育に関連する映画上映 ②食育の講演 3 上映会+講演会の開催 (佐倉市) 場 所: 佐倉市民音楽ホール (令和5年10月7日 (計1回)) 参加者: 269名 (うち県民177名) 内 容: ①食育に関連する映画上映 ②食育の講演 4 上映会+講演会の開催 (鎌ヶ谷市) 場 所: 鎌ヶ谷市東部学習センターレインボーホール (令和6年2月17日、18日 (計3回)) (上映会のみ2回、上映会+講演会1回) 参加者: 499名 (うち県民441名) 内 容: ①食育に関連する映画上映 ②食育の講演 5 味噌づくりワークショップの開催 (鎌ヶ谷市) 場 所: 鎌ヶ谷市内地域コミュニティスペース (コノハベース) (令和6年1月15日) 鎌ヶ谷市栗野コミュニティセンター創作室 (令和6年1月20日) (各1回、計2回) 参加者: 20名 (コノハベース) + 親子25名 (家族) (栗野コミュニティセンター) 計45名 内 容: ①味噌づくり 【農林漁業体験の機会の提供】 6 親子向け収穫農作業体験会の開催 (小出農園) (佐倉市) 場 所: 佐倉市内小出農園、弥富公民館調理室 (令和5年11月4日 (計1回)) 参加者: 親子21名 内 容: ①サツマイモの収穫農作業体験 ②試食 ○成果 【地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている割合】 目標: 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合の増加 実績値の検証 (算定) 方法等: 事業終了後、参加者を対象にアンケート調査を実施し、効果測定を行った。アンケートの設問内容は、①『このイベントに参加して、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理 (郷土料理など) や作法 (箸づかいなど) を知りたいと思いましたか?』とした。この設問に「はい」と回答した方に、さらに次の設問に回答をお願いした。②『それらを地域や次世代に伝えていきたいと思いましたか?』①の設問及び②の設問ともに「はい」と回答した者の割合を目標値とした。 目標値: 50.0% 実績値: 88.9% 達成度: 177% 【栄養バランスに配慮した食生活を実践する割合】 目標: 主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている者の割合の増加				

実績値の検証（算定）方法等：事業終了後、参加者を対象にアンケート調査を実施し、効果測定を行った。アンケートの設問内容は、『このイベントに参加して、主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日に2回以上食べる日を週に何日つくろうと思いましたか？』とした。上記設問に対し、4つの回答（「週に6～7日」「週に4～5日」「週に2～3日」「ほとんどない」）から「週に6～7日」を選択した者の割合を目標値とした。

目標値：65.0%

実績値：49.8%

達成度：76%

本項目の現状値は49.1%であった。現状値の根拠となる令和3年度千葉県生活習慣に関するアンケート調査では、回答者の約半数が60代以上であるのに対し（60代20%、70代以上32%）、今回のアンケートでは回答者の半数近くが40代及び50代となっている（40代22%、50代24%）。目標値を達成できなかった理由として、丁寧な説明を行っていなかったことから、主食は理解しているものの、主菜、副菜については、なんとなく理解していると考えられる。その一方で、事業実施後の目標値の設定について、安易に実態とかけ離れた高い目標値を設定したことも達成にできなかった要因である。

今後は、アンケートの設問について、現状を把握したうえ、内容についても丁寧な説明を行いながら実施するよう検討していく。

また、今回の事業において、上映時間や味噌作りの時間を優先して取ったため、主食・主菜・副菜をそろえた食事の意義の説明に費やす時間が少なかったことも目標値を達成できなかった要因として挙げられる。

【農林漁業体験の機会の提供】

目標：小出農園における子どもの農業体験延べ人数の増加

実績値の検証（算定）方法等：体験の場となる小出農園の令和5年度の子どもの農業体験者数によって効果測定を行った。

目標値：132人

実績値：140人

達成度：106%

【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】

目標：千葉県産農林水産物を購入したい人の割合

実績値の検証（算定）方法等：事業終了後、参加者を対象にアンケート調査を実施し、効果測定を行った。アンケートの設問内容は、『「千葉県」にお住まいの方にお伺いします。このイベントに参加して、千葉県産農林水産物を購入したいと思いましたか？』とした。上記設問に対し、4つの回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」）から「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を選択した者の割合を目標値とした。

目標値：91.0%

実績値：92.7%

達成度：101%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

食えることをテーマにした上映会、専門家による講演会、農産物加工や農林漁業体験など幅広い取組により、効果的な食育の啓発が図られた。「主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている人の割合」については、目標達成には至らなかったものの、本取組により食育への理解促進が図られたと考えられる。

第三者の主なコメント

千葉県学校栄養士会 会長 坂井 幸栄

県内各地で上映会及び講演を実施し、体験できるイベントも開催している。知識だけではなく、「体験し実感できる」といった活動ができる内容を組み込んでいることは参加者にとって魅力があり、得るものも大きいと考える。対象年齢が広いことも意義深い。

SNS等による発信もしているのを目にした。

国による評価の概要

「食べることを見直す」きっかけを多くの方に提供するための工夫をしている点と、参加者が「食は楽しい」と感じられるものである点は特に評価できるものである。

今後もこのような取り組みを継続することで、達成度の向上にも少しずつ繋がると考える。

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			ももくり佐倉		
事業の実施方法					
1 共食の場における食育活動					
2 食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援					
3 農林漁業体験の機会の提供					
目標値					
項 目	現 状	目 標 値	実 績	達 成 度	評 価
・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ食べている市民の割合	56.7%	80%	92.1%	115%	A
・地域等で共食したいと思う人が共食する割合	42.7%	75%	96.9%	129%	A
・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.8%	80%	91.8%	114%	A
・佐倉産を意識して農産物を購入している市民の割合	31.8%	35%	76.1%	217%	A
・地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合	43.9%	55%	74.4%	135%	A
・農林漁業体験を経験した者の述べ人数	0人	65人	90人	138%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等		所要額実績 (円)	左の交付金相 当額 (円)	交付率 (%)
1. 共食の場における食育活動 ・オープンデーの開催	7月～2月 (計18回)		196,041	196,041	100%
2. 食文化の保護・継承 や日本型食生活の実践の ための取組支援 ・基本の調味料作り ・燻製作り	1月～2月 (計10回) 1月 (計1回)		85,585	85,585	100%
3. 農林漁業体験の機会 の提供 ・有機米作り ・大豆を育てよう	7月～2月 (計18回) 7月～11月 (計2回)		256,807	256,807	100%

事業の成果

○取組事項

- 1 共食の場における食育活動（共食の場の提供）
オープンデーの開催
場 所：ももくり佐倉古民家
実施日：7月～2月（計18回）
参加者：平均23名／回 計420名
- 2 食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための取組支援
 - ・基本の調味料作り
場 所：ももくり佐倉古民家
実施日：1月～2月（計10回）
内 容：味噌甘酒作り・醤油作り
参加者：味噌甘酒作り57名・醤油作り48名 計105名
 - ・燻製作り
場 所：ももくり佐倉古民家
実施日：1月（計1回）
内 容：燻製作り
参加者：計33名
- 3 農林漁業体験の機会の提供
 - ・有機米作り
場 所：田んぼ・ももくり佐倉古民家
実施日：7月～2月（計18回）
内 容：草刈り・草取り・稲刈り・粃摺り・竹炭作り
参加者：計429名
 - ・大豆を育てよう
場 所：田んぼ・畑
実施日：7月～11月（計2回）
内 容：種まき・収穫
参加者：計23名

○成 果

【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】

目標：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ食べている者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート

目標値：80%

実績値：92.1%

達成度：115%

【地域等で共食したいと思う人が共食する割合】

目標：地域等で共食したいと思う人が共食する割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート

目標値：75%

実績値：96.9%

達成度：129%

【農林漁業体験の機会の提供】

目標：農林漁業体験を経験した者の述べ人数

実績値の検証（算定）方法等：事業終了後に参加者の延べ人数を算出

目標値：65人

実績値：90人

達成度：138%

【共通項目】

目標：産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート

目標値：80%

実績値：91.8%

達成度：114%

目標：佐倉産を意識して農産物を購入している者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート

目標値：35%

実績値：76.1%

達成度：217%

【食文化の継承度】

目標：地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート

目標値：55%

実績値：74.4%

達成度：135%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

共食の場における食育活動や、食文化の保護・継承や日本型食生活の実践のための各体験、農林漁業体験の機会の提供により、効果的な食育の推進が図られ、アンケート結果ではいずれも目標値を上回る結果となり、食育の推進に資するものであったと評価できる。

第三者の主なコメント

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学名誉教授
明石 要一

ももくり佐倉の実践は良い成果をもたらしている。それぞれの項目で目標達成 100%を軽く超えている。目標値のインデックス 6 項目ある。それぞれで高い数値を示している。

それはなぜだろうか。一つのヒントはそれぞれの活動で回数が半端ではない。10 回とか 18 回という複数の活動を重ねている。チリも積もれば山となっているのではなかろうか。

代表的な事例を取り上げる。「農林漁業体験の機会の提供」はなかなか難しい実践である。延べ人数ではあるが、達成度は 138%に達している。もう一つは共通項目である。「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ割合」もアンケート結果を見ると、達成度 114%に達している。これもかなり意識しないと数値が上がってこない実践である。

これだけうまくいったケースなので、「ももくり佐倉」グループの組織分析をしたくなる。どうしたメンバーが集まり、日常的にどういった活動をしているか、知りたい。

これからはこうした成果が読み取れる組織分析が必要となってくるだろう。リーダーやメンバーの笑顔が見えてくる気がする。楽しみである。

国による評価の概要

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			千葉県		
事業の実施方法					
課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
・主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている者の割合	49.7%	58.5%	92.4%	157%	A
・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.8%	77.4%	93.9%	121%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等		所要額実績 (円)	左の交付金相 当額(円)	交付率 (%)
課題解決に向けたシンポジウム等の開催	ちば食育推進大会の開催 令和6年2月1日(計1回)		280,552円	140,276円	50%以内
事業の成果					
○取組事項					
課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
ちば食育推進大会					
場 所：千葉市生涯学習センター(令和6年2月1日(計1回))					
参加者：ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業、行政機関等 93名					
内 容：バランスのよい食生活に関する講演、学校給食の地産地消に関する事例発表、 パネルディスカッション、パネル展示					
○成 果					
課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】					
目標：主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている者の割合の増加					
実績値の検証方法：事業終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定					
目標値：58.5%					
実績値：92.4%					
達成度：157%					
【共通項目】					
目標：産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合の増加					
実績値の検証方法：事業終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定					

目標値： 77.4%
実績値： 93.9%
達成度： 121%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

バランスのよい食生活や学校給食での地産地消の取組に係る講演、事例発表等を実施し、効果的な食育の啓発を図った。アンケートではいずれも目標値を上回る結果となり、食育の推進に資するものであったと考えられる。

第三者の主なコメント

千葉県学校栄養士会 会長 坂井 幸栄

参加者が食育に関わる様々な立場の方である点、内容が講演・発表・パネル展示等、耳でも目でも訴えるものであった点が、とても意義がある。

成果の「主食・主菜・副菜をそろえた食事の実践度」の目標値に対し、達成度 157%とかなり高い。また「食品等を選ぶ際に地産地消を意識できる」の達成度も同様である。

これらの取り組みを継続し、望ましい食生活を実践できる県民・地場産物等への関心を持てる県民の増加に繋げていくことが、未来のために重要である。

国による評価の概要

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			千葉県		
事業の実施方法 課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
目標値					
項 目	現 状	目標値	実績	達成度	評価
・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合	57.7%	80.0%	94.0%	117%	A
・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.8%	77.4%	91.8%	118%	A
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相 当額(円)	交付率 (%)	
課題解決に向けたシンポジウムの開催 「食育のつどい」の開催 ①食育のパネル展示 ②栄養バランスを考える体験等	①6月19日～6月29日 ②6月30日、7月1日	698,012	349,006	50%以内	
事業の成果					
○取組事項 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 「食育のつどい」の開催 ①食育のパネル展示 ②栄養バランスを考える体験等 場 所：イオンマリリンピア店 開催日：①6月19日～6月29日 ②6月30日、7月1日 対象者：市民等 (計1,281人) 内 容：約2週間パネル展示を実施した後、食育体験を行うブースを追加設置し、食育に関する普及啓発を行った。 (1) 食育に関するパネル展示 食に関わる関係機関・団体等の食育活動の紹介や、栄養バランスや地産地消、食品ロスなどについて考えるきっかけとなるポスター掲示、パンフレット配布等を行い、食育の意識向上を図った。 (2) 栄養バランスを考える体験等 イベントにて、食事のバランス(主食・主菜・副菜)を考える体験や、県・市内産農産物を知る体験等を行った。					
○成 果 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】 目 標：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合 実績値の検証(算定)方法等：アンケート調査(267名) 設 問：食育のつどいに参加し、毎日2回以上、栄養バランスに配慮した(主食・主菜・副菜を組み合わせた)食事をしていきたいと思いましたか。					

結 果：「（ア）はい」と回答した者の割合 94.0%

目標値：80.0%

実績値：94.0%

達成度：117%

食育のつどいは、食に関わる関係機関・団体等と連携し、栄養バランスや地産地消等の目標項目の達成に向けて様々な視点で啓発することができた。商業施設を会場とすることで、無関心層をはじめ、あらゆる世代が掲示物に目をとめ、食育の啓発に効果的であったと考えられる。

2 共通項目

【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】

目 標：産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

実績値の検証（算定）方法等：アンケート調査（267名）

設 問：食育のつどいに参加し、産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選んでいきたいと思いましたか。

結 果：「（ア）はい」と回答した者の割合 91.8%

目標値：77.4%

実績値：91.8%

達成度：118%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

商業施設において、市内各組織で取り組んでいる食育活動のパネル展示や、栄養バランスや県、市産の農産物を考える食に関するイベントを実施することにより、効果的な食育の啓発が図られた。アンケートではいずれも目標値を上回る結果となり、食育の推進に資するものであったと評価できる。

第三者の主なコメント

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学名誉教授
明石 要一

「食育の集い」では、15 団体・機関の参加が得られている。市民の参加は1281人に達している。イベントとしては成功している。そして、参加者を対象にしたアンケートでも「栄養のバランスに配慮した食生活の実践度」も、達成度が117%に達している。商業施設の活用が効果をもたらしているケースである。今後参考になるであろう。

共通項目である「産地や生産者を意識した農林水産物・職員を選ぶ者の割合」でも目標値をはるかに超えている。達成率は118%に達している。

千葉市の実践は高く評価できる。

国による評価の概要

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5 年度			木更津市		
事業の実施方法					
1. 課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
2. 食育推進リーダーの育成及び活動の促進					
3. 学校給食における地場産物等活用の促進					
目標値					
項 目	現 状	目 標 値	実 績	達 成 度	評 価
・ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合	51. 5%	53. 7%	78. 9%	146%	A
・ 食育の推進に関わるボランティアの人数	25 人	31 人	29 人	93%	B
・ 学校給食における地場産物等を使用する割合	81. 3%	83. 5%	74. 2%	88%	B
・ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	90. 4%	92. 4%	91. 5%	99%	B
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等		所要額実績 (円)	左の交付金相 当額 (円)	交付率 (%)
1. 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 ①啓発ポスターによる市民への食育の啓発	食育啓発用ポスター印刷 (A1 サイズ・15 枚) 6 月及び 11 月実施		108, 900	54, 000	50%以内
2. 食育推進リーダーの育成及び活動の促進 ①食育コンシェルジュによる食育啓発動画の制作・配信	食育啓発動画制作 (5 分程度×10 本) 7 月～3 月制作 2 月 29 日から一部配信		2, 852, 300	1, 426, 000	50%以内
3. 学校給食における地場産物活用の促進 ①地元産食材を使った顔の見える地産地消給食の提供及び食育授業の実施	メニュー開発 (1 回)、専門家による食育授業の実施 (3 回)、それらに使用する食育資料ちらし (3,000 枚)・啓発用ポスター (20 枚) 制作 食育授業 小学校 2 校 12 月に計 3 回実施		252, 582	126, 000	50%以内

事業の成果

○取組事項

1 課題解決に向けたシンポジウム等の開催

啓発ポスターによる市民への食育の啓発

場所：イオンモール木更津

内容：国及び千葉県の食育月間に合わせ、6/23～7/3、11/15～11/27の間、啓発ポスターにより市民への食育の啓発を実施

展示ブースへの来場者数：1,819人

2 食育推進リーダーの育成及び活動の促進

食育コンシュルジュによる食育啓発動画の制作・配信

7月～3月食育啓発動画制作（5分程度×10話（本））

2月29日から制作した動画2話（本）を配信

4月19日から制作した動画8話（本）を配信

視聴回数：1,205回（令和6年6月25日現在）

3 学校給食における地場産物活用の促進

食材を使った顔の見える地産地消給食の提供及び食育授業の実施

食育授業

中郷小 12/6・12/11の2回

祇園小 12/15の1回

計3回実施

食育授業参加者数：中郷小24人、祇園小100人 計124人

○成果

1 課題解決に向けたシンポジウム等の開催

【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ割合】

目標：産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

実績値の検証（算定）方法等：啓発イベント回答数

目標値：92.4%

実績値：91.5%

達成度：99%

啓発イベントの実施会場である商業施設には本市以外からの来店者数も多く、幼児を含む若年家族の参加が多かったことから、経済的理由や食に対する意識が希薄等により目標値に届かなかったものである。

2 食育推進リーダーの育成及び活動の促進

目標：食育の推進に関わるボランティアの数

実績値の検証（算定）方法等：市からの委嘱者数

目標値：31人

実績値：29人

達成度：93%

食育ボランティアの募集にあたっては、市及びJAの広報紙への掲載をはじめ、市ホームページでの募集、JA及び商工会議所女性会で募集説明を実施した結果、知識の取得を目指し、食育のボランティアを志向する方がいる反面、時間を費やすボランティアを敬遠する方など近年、市民の多様な考え方が進んでいることから、募集（目標）に対し、応募が少なかったものである。

今後の募集にあたっては、従来の募集周知方法に民間情報誌（SNS）の活用、公民館のサークル活動者への周知等を加えて実施したい。

3 学校給食における地場産物活用の促進

【学校給食における地場産物等を使用する割合】

目標：学校給食における地場産物等を使用する割合

実績値の検証（算定）方法等：令和5年度千産千進デーにおける学校給食実績

目標値 : 83.5%
実績値 : 74.2%
達成度 : 88%

学校給食食材について、今年度は予定していた地場産物が天候不順等により確保できなかったこと、物価高騰により地元産より安価な国産品を使用したことにより目標に届かなかったものである。

【食文化の継承度】

目標：地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承している者の割合
実績値の検証（算定）方法等：小学校でのアンケート調査

目標値 : 53.7%
実績値 : 78.9%
達成度 : 146%

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

啓発ポスターの展示や学校給食での地場産物活用により、効果的な食育の推進が図られた。また、各種テーマで制作した 10 本の食育啓発動画は、今後学校等における教材として活用いただきたい。「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ割合」、「食育の推進に関わるボランティアの数」及び「学校給食における地場産物等を使用する割合」については、目標達成には至らなかったものの、各取組により食育への理解促進が図られたと考えられる。

第三者の主なコメント

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学名誉教授
明石 要一

木更津市の意欲的な取り組みは良い。様々な取り組みが新鮮である。とりわけ、食育リーダーの育成及び活動の促進は目新しい。これまでは食育推進リーダーといえは食生活改善委員となっていたが新たな視点を持って取り組んでいる。成果は目標値に達していないが、木更津市は学校支援ボランティアの発祥の地である。これらの実績を踏まえた食育推進のリーダー育成が求められる。

「学校給食における地場産業活用の促進」が目標達成しなかった理由は理解できる。理念はよいが実践は難しい。JA 等との連携を密にしながら「週間」や「月間」という単位での地場産業の活用を促進してはどうであろうか。

「食文化の継承度」の目標値達成が低い。木更津市などでは伝統的な料理の継承がされていると推測されたが、そうではなかった。伝統的な料理が各家庭で行われなくなっている証でもある。様々な家庭が出現しつつある。簡便な料理に依存しがちであるなか、少しでも伝統的な料理の良さを普及させる活動が求められる。学校給食と地域でのお祭りを中心とした伝統行事とのコラボレーションが期待される。

国による評価の概要

目標：地域での食育の推進					
事業実施期間 5年度			船橋市		
事業の実施方法 課題解決に向けたシンポジウム等の開催					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
・主食・主菜・副菜を 組み合わせて食べてい る者の割合	71.2%	80.0%	96.9%	121%	A
・野菜を1日2回以上 食べている者の割合	57.9%	80.0%	93.8%	117%	A
・農水産物を購入する 際に、産地を意識して 購入している者の割合	61.1%	75.5%	75.0%	99%	B
<地区推進事業>					
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相 当額(円)	交付率 (%)	
課題解決に向けたシンポ ジウム等の開催 ①食育展 ②健康づくり公開講座	・6月(計3回) ・11月(計1回)	66,000	33,000	50%以内	
事業の成果 ○取組事項 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 ①食育展 開催日、場所： 令和5年6月12(月)～18日(日) イオンモール船橋 メイン通路(展示) 17(土)～18日(日) " 光の広場(イベント) 19(月)～23日(金) 船橋市役所1階 階段周り(展示) 26(月)～30日(金) 船橋市保健福祉センター ロビー(展示) 対象者：市内在住・在勤者及び来場者 内容：船橋産食材やバランスの良い食事、食品ロスや食文化に関するパネル展示を行うととも に、船橋産物の即売会や野菜摂取量増加を推進するためのイベントを実施 出展者：庁内食育関係各課、市内食関係団体等 ②健康づくり公開講座 開催日：令和5年11月25日(土) 午後2：00～午後4：00 場所：船橋市中央公民館6階講堂 対象者：市内在住・在勤者・在学者 内容：バランスの良い食事の摂り方、時間栄養学に関する講演会 共催者：船橋市栄養士会、船橋市保健所管内集団給食協議会、船橋市調理師会 ○成 果 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 【栄養バランスに配慮した食生活の実践度】					

目標：①主食・主菜・副菜を組み合わせで食べている者の割合

検証方法：イベントの評価として、終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定を実施

目標値： 80.0%

実績値： 96.9%

達成度： 121%

目標：②野菜を1日2回以上食べている者の割合

検証方法：イベントの評価として、終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定を実施

目標値： 80.0%

実績値： 93.8%

達成度： 117%

【産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合】

目標：③農水産物を購入する際に、産地を意識して購入している者の割合

検証方法：イベントの評価として、終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定を実施

目標値： 75.5%

実績値： 75.0%

達成度： 99%

イベントの評価として、終了後に参加者を対象としたアンケート調査により効果測定を実施したところ、評価項目③農水産物を購入する際に、産地を意識して購入している者の割合が達成度 99%となった。原因として、実施したイベント（講座）において、目標③の項目に比べて目標①②についての内容が重点的に盛り込まれており、地産地消や産地の意識といった内容の周知・啓発が不足していたためと考えられる。改善策として、今後のイベント等で農水産部門とも密に連携しながら地産地消の内容を盛り込んだ事業を実施し目標達成を図る。

都道府県等、都道府県域を越えた取組又は広域の取組の事業実施主体による評価の概要

商業施設や市の施設でのパネル展示、健康づくりに関する講座により効果的な食育の啓発が図られた。「農水産物を購入する際に、産地を意識して購入している者の割合」については目標達成に至らなかったものの、各取組により食育への理解促進が図られたと考えられる。

第三者の主なコメント

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学名誉教授

明石 要一

健康寿命を延ばすことが国の大きな目標課題である。80、90歳を過ぎても人の世話にならずに生活できるスタイルの確立である。健康寿命を延ばすには社会参加、スポーツをする健康づくりと同時に食生活の改善が求められる。「食」は毎日のことなのでより一層重要となる。

船橋市は食生活の改善の方法の一つにシンポジウムを開催している。内容は「食育展」と「健康づくり講座」の二つである。「食育展」は6月に4回開いている。ともに「栄養バランスを配慮した食生活の実践度」となっている。

成果を見ると「主食・主菜・副菜を組み合わせで食べている」割合と「野菜を1日2回以上食べている」割合は、ともに目標値を達成している。これは大きな成果である。「食育展」とシンポジウムだけでこれだけの成果が出ることは珍しいのではなかろうか。船橋市の秘密は何か精査する必要がある。と同時に「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者」の割合は目標値にわずかに足りていない、ことも精査する必要がある。

全体的にみて船橋市の実践はかなりの成果を上げている、といえる。

国による評価の概要